

派遣先所属 岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
氏 名 富田 典行（とみた のりゆき）
派遣期間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の宮古土木センターは、管内の道路や河川の管理、防潮堤などの整備を行っています。

私は用地課第 1 チームに所属し、主に水産振興センターが施工している漁港の復旧事業や防潮堤の工事に伴う用地取得を担当しています。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、地震に伴い発生した津波で多くの道路や漁港が破壊され、ガレキにより海岸沿いの集落を結んでいる道路が寸断されたほか、漁港に停泊していた漁船の 90%以上が津波により流され漁業に壊滅的な被害を及ぼし、船を失った漁師はしばらく漁に出られない状況が続いていました。

このため、再び津波が発生しても漁船が流失しないよう停泊施設を奥に整備し、被害を受けてもすぐに漁業が始められるよう工夫して漁港の整備を進めています。



震災遺構のキャンプ場のトイレと炊事場（宮古市中の浜地区）

当センターには他の都道府県からの派遣職員も多数おり、私は長野県、神奈川県、山梨県からの応援職員とともに復興事業に邁進しています。

当初は応援職員も仮設住宅に住んでいましたが、昨年 8 月の台風 10 号により仮設住宅が被災し、災害復旧のための派遣の職員が被災し家財道具や衣類などが床上浸水ですべて廃棄せざるを得ない状況となり、中には命からがら退避した派遣職員もいて皆さん大変な思いを経験しました。現在は、借り上げアパートに分散して入居しています。

2 被災地の復旧、復興の状況

震災から6年以上が経過し、場所によっては防潮堤の工事も順調な箇所もありますが、現在も用地取得が完了していない箇所やライフラインとの調整などで遅れている箇所もあり、完成までには後数年かかるところもあります。そのため、岩手県職員、他県からの派遣職員、任期付職員が力を合わせ、復興に向けて一丸となって働いています。



防潮堤復旧工事の様子（山田町船越地区）

3 被災地へ派遣となって感じたこと

私が担当している漁港の漁師さんは、暗いうちから漁に出て、ワカメや昆布、ウニやアワビなどを獲って、毎日一生懸命に働いています。

地元のニュースでは今でも被災地の現状や頑張っている被災者の状況など連日放送していますが、埼玉県に戻ると被災地の状況を知らせてくれる機会（ニュース）が少ないように感じています。

そのためには、我々派遣職員がそれぞれの地元に戻った際に、現在の状況を少しでも伝えていくことが、我々に与えられたもう一つの使命と感じ、接する人達になるべく被災地の現状を伝え、復興の現状を理解してもらえよう心掛けています。

他県の方が被災地に来県し、実際に復興の現状を見ていただくのが地元の人達を少しでも元気にしてくれることと感じています。

三陸地方はリアス式海岸で景色がとても素晴らしく、そして魚介類も新鮮でおいしいものがたくさんあります。内陸地域はお米の生産が有名ですが、意外に知られていないのが、岩手県は果物の生産も盛んに行われていることです。

今年の夏休みに、宮古港にある道の駅で来場者のアンケートを実施したところ、他県から宮古市へ観光などで来られた方の数が埼玉県は東京都に次いで第2位だったことを知って、埼玉県民の方も復興支援のために岩手県に来県してくれていることで、逆に私自身励まされたところです。